

第 9 回門真市魅力ある教育づくり審議会

各部会での意見（まとめ）

○子どもの学ぶ意欲向上部会での意見

- ・学級数がかなり少ない学校では、一人で学年を持つので、相談するところがない。また、子どもの立場に立つと先生との相性があるので、クラス替えがないまま同じ先生に数年間持たれるということもあり大変である。
- ・小規模の学校だと先生が目が行き届きやすい反面、クラスで問題が起こると、場合によっては不登校のことなども考えなければいけない。
- ・小規模校はメリット、デメリットが合わさっているという状況で、一定規模のクラス替えができる程度の規模がないと、なかなか人間関係という点では難しい。
- ・全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙の主体的対話的で深い学びに関連する項目を見ると、主体的対話的で深い学びについて、特に小学校では主体的対話的な授業というのが難しい状況にある。深い学びという点でも難しい状況にある数値として低く見える部分がある。ただし、児童がそのように認識していないことも考えるため、実態に即した状況理解が必要である。
- ・そもそも対話的とは対話だけしてればよい授業ではない。どういう内容で対話をし、それがどう深い学びにつながっていくのか。そのための授業づくりをどうしていくのが大切である。そのためには小学校での基礎的な学習内容というのをきっちりしなければいけない。先生側の方で余裕を持ってできる授業の時間割りが必要。
- ・ICTについては、これからもっと環境整備を整えていく必要がある。
- ・デジタル教科書は様々な教科で導入されていて、例えば理科ではも、デジタル教科書を使った授業が浸透していて、ICT 機器を使うことで、複数のクラスを授業する場合の準備がかなり効率化される。また、先生方同士で教材の苦手な部分と得意な部分のお互いのカバーをできる。他にも、通知票であったとか成績をつける上でも ICT がかなり業務軽減に生かされている。
- ・ICT の環境整備を進めていく中で、よりよい授業より効率的な働き方を研究にしていく必要があるのではないかと。
- ・一方で、ICT を使い過ぎることで、本来高めたい創造力、創造できる先生、

創造できる子どもを逆に潰してしまう可能性があるので、バランスをとってICTを使っていく必要がある。

○つながりのある教育の創造部会での意見

- ・門真の現状として小中のそれぞれの教職員の連携とか理解という小中一貫教育はこの10年間随分と進んできた。しかし、小中一貫教育はどうしても物理的な距離が障害となってこれ以上進めにくいところもある。そのため、施設一体型の小中一貫校であれば解消が可能であると思われるので進めていきたい。
- ・小中一貫校のメリットは、授業の理解が進んだ、勉強が好きになった、意欲が向上した、不安がなくなった、中一ギャップがなくなったとか、メリットが大きいので早く進めてほしい。子どものためのメリットが大きいということであればいいのではないか。
- ・デメリットとして挙げられているものは、子ども達たちへ心配りを知らせたりとか、建物の工夫とかで克服することもできるのではないか。また、施設が出来つつある時に、検討すれば十分ではないか。
- ・メディアセンターとか広々とした教室とか、いろんな形で使えるような教室、ゆとりのある施設というのも欲しい。
- ・人間関係が固定されるデメリットである小規模校で十数人の子ども達がずっと6年間一緒という門真の現状が喫緊の課題なので、そういう意味でも統合して、大きな人数にして、むしろそれは解消できるのではないか。
- ・前回の学校適正配置審議会では1つの小学校から2つの中学校に進学するということが起こっていた時代で、それを解消するために議論が進んだり、あるいは2つの小学校から1つの中学校に入ることが、当時は妥当な議論として進んできたようだが、今はもうそういう現状ではないので、今に合わせて柔軟に対応しながら、小中一貫校を創っていくということが子どものためになるのではないか。
- ・地域とのつながりを重視した学校のあり方について、善意は非常にありがたいが、なかなか地域の方がやりたいことがたくさんあって、うまく調整がつかないことがある。
- ・ルールをもう少し明確にしていきながら、ボランティアがやりたいことをやるのではなくて、ボランティアは学校が求めることを原則にさせていただくのだと、学校とうまく調整つけながら、良い地域との関係を作っていけたら良い。
- ・地域の方がどんどん学校に入ってきていただくメリットを生かすためにも、動線

を分けていきながら、子どもの安全も配慮しなければならない。